

国語だよりR3 その3

相良中学校 国語部

わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと
人には告げよ / あまの釣船



今日の一首は、「小倉百人一首」の11番、小野篁の歌です。歌の内容は「大海原に多くの島目指して漕ぎ出したと、都のあの人に伝えておくれ。漁師の釣船よ」というものです。

作者小野篁は、宮中の役人で優れた学者でもありました。この歌は、作者が上皇の怒りに触れて島流しになったときに詠んだものだといわれています。自分の正義を貫いた結果の流刑でしたので、後悔とか反省とかいう気持ちとは縁遠い、力強い歌になっています。小野篁は多くの伝説を持つなぞの人物です。調べてみるのも面白いでしょう。

読書感想文課題図書レビュー③

『牧野富太郎～日本植物学の父～』清水洋美／著



タイトルにもある通り、「日本植物学の父」として知られる牧野富太郎。植物の採集から図解、生態の調査、分類、そして図鑑の発行など、植物に関するありとあらゆることを貪欲に、徹底して行ってきた人物である。驚くべきは、小学校すら卒業していないにもかかわらず、その才能と功績が認められ東京大学で講師を務めたという事実。彼がいなかったら日本の植物学は何十年と遅れていたことは間違いない。文字通り「植物を愛し植物に愛された」男の、九十四年の人生をまとめた一冊だ。

残念なことに、読みごたえがないことはなはだしい。伝記だからかな。様々な場面での富太郎の思いが、きちんと解説されてしまっている。わかりやすすぎるのだ。加えて、彼の残した業績の偉大さ。これはもう、「ぼく（私）と違って、牧野富太郎さんは偉いと思いました」以外の感想文なんか書けそうにない。アプローチの仕方を考え直そう。

「植物好き」「図鑑好き」なマニアな人はいないだろうか。掲載されている図録の写真や彼の描いた植物の絵に、ワクワクするような感動を覚えた人にぜひオススメしたい。紹介されているエピソードにも夢中になれるはず。

視点を変えるなら、「牧野富太郎を支えた人たち」というのはどうだろう。彼の才能を守ろうとした妻の壽衛（すえ）さんを始めとする多くの人々との交流は、とても心温まるものであった。

